

＜ 芸 術 ＞ 科 学 習 シ ラ バ ス

科 目		音楽Ⅱ	学年・類型	2 年生・Ⅰ 型	単位数	2 単位	教科書	MOUSA 2（教育芸術社）		
学習の到達目標			・歌唱や器楽、創作の表現活動を通して、発展的な技能を身につけるとともに、表現する楽しさを味わう。 ・楽譜についての知識を身につけ、読譜能力、記譜能力の向上を図る。 ・鑑賞の活動を通して、楽曲のよさや美しさを文章にして表現したり、批評したりする能力を身につける。							
評価の観点	A 知識・技能			B 思考・判断・表現			C 主体的に学習に取り組む態度			
評価の内容	曲想と音楽の構造や歌詞、奏法、文化的・歴史的背景等との関わりについて理解している。創意工夫を生かした表現をするために必要な、曲にふさわしい技能を身につけ、歌唱や器楽で表している。			音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現意図をもったり、自ら味わって聴いたりしている。			曲想と音楽の構造や歌詞、奏法、文化的・歴史的背景等との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。			
評価の方法	・学習活動での表現内容 ・筆記テスト ・実技テスト ・創作活動での作品 ・ワークシート			・学習活動での表現内容 ・筆記テスト ・実技テスト ・創作活動での作品 ・ワークシート			・学習活動への参加姿勢や態度 ・予習や復習、課題への取組状況 ・ワークシート ・レポート			
学期	月	単元名・小単元名		学 習 の 指 導 内 容				評 価 の 観 点		
								A	B	C
1 学期	4	曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう ○Alleluja ○糸 ○Funiculi-Funicula		発声練習に適した曲や親しみやすい曲、歌いやすい曲を通して、発声などの技能を身に付けながら、表現を工夫して個性豊かに歌うとともに、主体的・協働的に学習に取り組む意欲を高める。				○		○
	5	リズムによってアンサンブルをしよう ○ソルフェージュ（リズム） ○Prelude Ⅲ ○シンコペーテッド・クロック								
	6									
	7	音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう ○《ピアノスアイレスの冬》 ○〈四季〉から〈冬〉								
2 学期	8・9	日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう ○浜辺の歌/からたちの花 ○Nel cor più non mi sento ○Je te veux 変奏や編曲に挑戦しよう		さまざまな言語による歌曲に親しみ、それぞれの特徴を理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、表現を工夫して独唱する。				○		○
	10			身近な曲の旋律をもとに、音楽を形づくっている要素の働きを変えることで、曲のもつ表情や雰囲気を変化させ、個性豊かに変奏や編曲をする。				○		○
	11	ポップスの特徴を理解して歌おう ○SUN ○歩いて帰ろう ○ハナミズキ ○Can't Take My Eyes Off Of You 表現を工夫してギターを演奏しよう ○天体観測 ○愛のロマンス ○Happy Birthday to You		日本や外国のポップスをリズムによって歌ったり、曲に込められた思いを味わったりしながら、曲想と歌詞との関わりなどを理解し、個性豊かに歌う。					○	○
	12			ギターの音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、音色や表現を工夫して個性豊かに演奏する。				○	○	
	12	世界の諸民族の音楽を知ろう ○鑑賞：「世界の諸民族の音楽」 ○器楽：ラ・クンパルシータ		世界の諸民族の音楽を、身振りを伴う表現に着目して鑑賞したり演奏したりしながら、その音楽や表現の特徴を理解する。				○	○	
3 学期	1	ミュージカル・ナンバーを歌おう ○The Phantom of the Opera ○All I Ask of You ○ミュージカル《オペラ座の怪人》		物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して個性豊かに歌う。					○	○
	2	和楽器に親しみ、演奏に挑戦しよう ○涙そうそう ○〈一段〉		和楽器に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する。				○		○
	3	作曲家の生涯と作品をたどろう ○「クロース・アップ・マエストロ」 L.v. ベートーヴェン		L.v. ベートーヴェンの生涯をたどりながら、それぞれの作品の特徴を理解し、魅力を味わう。				○		○
学習のポイント		・楽典の知識をしっかりと身に付け、読譜力、記譜力を鍛える。 ・ワークシートや創作課題、レポートを確実に仕上げる。 ・表現活動の際は積極的に活動し、技能を身に付けるだけでなく創意工夫を生かした表現を心掛ける。								